

男女共同参画の視点で横須賀市役所を見る

～新人事制度改革と、男女平等モデル事業所づくりは果たしてどうなるのか？～

日時 平成16年6月16日(水) 18時～

会場 職員厚生会館3階 第1・2研修室

【内容／予定】

1. OPTIMIST CLUB 紹介【資料1】
2. 出席者自己紹介
3. OPTIMIST CLUB のこれまでの活動報告【資料2】
4. 横須賀市役所の男女平等モデル事業所づくりについて【資料3】
5. 職員の男女比、役職者比【資料4】
6. 人事制度改革概要
7. 意見交換

【資料1】

OPTIMIST CLUB 紹介

外部の人からではなく、同じ職員の中から事務職の女性課長が初めて誕生したのは今から11年前の平成5年。長い市役所の歴史を考えればつい最近のことと言ってもいいのではないのでしょうか。そんな頃に自主研究グループ OPTIMIST CLUB(以下 OP)が誕生しました。給湯室で愚痴っているだけでは何も変わらない、あきらかに性別で仕事の内容や扱いに違いのあるこの市役所内に、どのような問題があるのか—その原因を考えて力をあわせて行動しようと思ったのです。以来、職場内の女性問題と市役所の男女共同参画に関する様々なテーマで研究と提案をし続けています。

一時、市役所もだいぶ変わったと実感した時期もありますが、新しいテーマに取り組む度に、「まだまだ考えなくてはいけないことがこんなにあったのだ」とも感じながら今に至っています。確かに今の市役所は性別でチャンスの与えられ方が違うなどといったことはなくなってきました。しかし、これまでの格差が埋まったというわけではありません。現実に性別で仕事内容や人数に偏りのあり続ける職場があります。女性管理職も増えたという実感はありません。今差別していないから男女平等になったというわけではないのです。

途中、メンバーの入れ替わりも若干ありました。また、メンバー自身も抱える課題が変わってきました。だんだん任される仕事も多くなるにつれ、自主研究活動にかけられる時間を作ることも困難になってきました。しかし、横須賀市が男女平等の事業所になり、誰もが性別にかかわらず力を発揮できる組織になってほしいと願い、同じ思いを持つ仲間たちと活動を続けています。